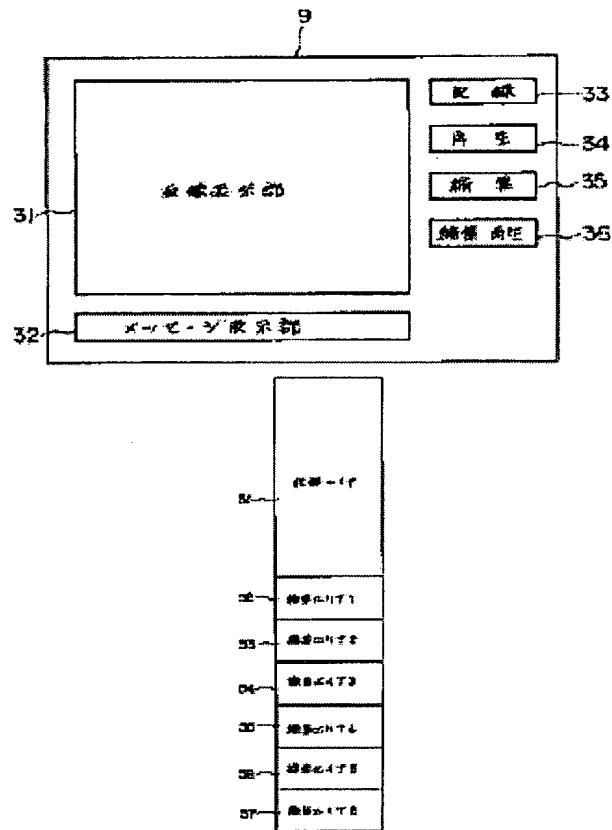


COMMUNICATION EQUIPMENT

Patent number: JP5063842
Publication date: 1993-03-12
Inventor: KADOWAKI SHUICHI
Applicant: CANON KK
Classification:
 - international: H04M1/00; H04M11/00
 - european:
Application number: JP19910221362 19910902
Priority number(s): JP19910221362 19910902

Abstract of JP5063842

PURPOSE: To attain recording and reproduction of communication data efficiently by storing selectively information received from a communication opposite party, reproducing the stored information, editing selectively it and storing it and reproducing the information edited selectively. **CONSTITUTION:** The equipment is provided with a recording area 51 storing information received from a communication opposite party, a recording touch sensor 33 commanding the storage of the information selectively into the recording area 51, a reproduction touch sensor 34 reproducing the information stored in the recording area 51, and edit areas 52-57 storing part of the information reproduced by the reproduction touch sensor 34. Furthermore, the equipment is provided with an edit touch sensor 35 giving a command of editing selectively the information reproduced by the reproduction touch sensor 34 and storing the result to the edit areas 52-57 and an edit reproduction touch sensor 36 reproducing the information stored in the edit areas 52-57. Thus, the storage means with less capacity is used efficiently.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12)公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-63842

(43)公開日 平成5年(1993)3月12日

(51) Int.CI.⁵
H04M 11/00
1/00

識別記号
302 7117-5K
M 7117-5K

F I

審査請求 未請求 請求項の数1 (全8頁)

(21)出願番号 特願平3-221362

(22)出願日 平成3年(1991)9月2日

(71)出願人 000001007
キヤノン株式会社
東京都大田区下丸子3丁目30番2号

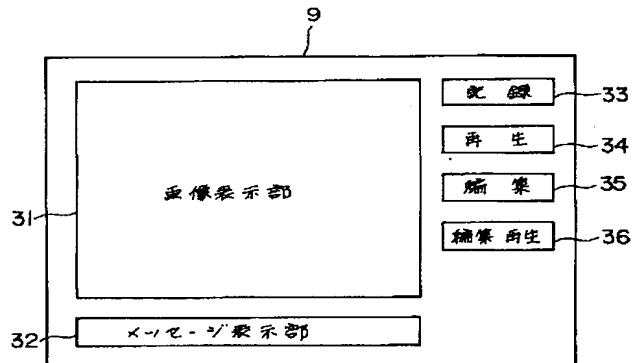
(72)発明者 門脇 修一
東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
ノン株式会社内

(74)代理人 弁理士 大塚 康徳 (外1名)

(54)【発明の名称】通信装置

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 効率的な通信データの記録及び再生を行う。
【構成】 受信された画像及び音声データはCRT9に表示された記録タッチセンサ33の押下によってRAMの記憶エリアに格納される。受信終了後、編集画像一覧を表示し編集データを記憶する編集エリアを指定して、記憶エリアに記録された情報を再生させ、編集記録したい部分のみを編集タッチセンサ35を押下することによって指定されたRAMの編集エリアに格納する。編集終了後、編集再生タッチセンサ36の押下によって編集データを再生する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 通信相手から受信した情報を格納する第1記憶手段と、

前記情報を選択的に前記第1記憶手段に格納するよう指示する第1指示手段と、

前記第1記憶手段に格納された情報を再生する第1再生手段と、

前記第1再生手段によって再生された情報の一部を格納する第2記憶手段と、

前記第1再生手段によって再生された情報を選択的に編集して前記第2記憶手段に格納するよう指示する第2指示手段と、

前記第2記憶手段に格納された情報を再生する第2再生手段とを有することを特徴とする通信装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は通信装置に関し、特に、通信回線を利用して画像・音声・データの伝送を行うマルチメディア通信装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来のマルチメディア通信装置では、相手との通信中に記録した画像と音声を通信終了後に再生して内容を確認していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら上記従来例では、相手との通信中に記録した画像と音声は編集せずそのまま図8に示すようなRAMなどの記憶媒体に保存していたため、何回もの通信を記録したい場合には大容量の記憶媒体を必要とするばかりではなく、記録データの再生時に、必要とする情報以外に不要な画像や音声を視聴しなければならないという問題があつた。

【0004】 本発明は上記従来例に鑑みてなされたもので、効率的な通信データの記録及び再生が可能な通信装置を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために本発明の通信装置は、以下のような構成からなる。即ち、通信相手から受信した情報を格納する第1記憶手段と、前記情報を選択的に前記第1記憶手段に格納するよう指示する第1指示手段と、前記第1記憶手段に格納された情報を再生する第1再生手段と、前記第1再生手段によって再生された情報の一部を格納する第2記憶手段と、前記第1再生手段によって再生された情報を選択的に編集して前記第2記憶手段に格納するよう指示する第2指示手段と、前記第2記憶手段に格納された情報を再生する第2再生手段とを有することを特徴とする通信装置を備える。

【0006】

【作用】 以上の構成により本発明は、通信相手から受信した情報を選択的に記憶し、その記憶された情報を再生

して選択的に編集して記憶し、選択編集された情報を再生するよう動作する。

【0007】

【実施例】 以下添付図面を参照して本発明の好適な実施例を詳細に説明する。

【0008】 【装置の概要説明（図1～図2）】

図1は、本発明の代表的な実施例であるマルチメディア通信装置の構成を示すプロツク図である。図1において、1は操作キー入力を行うキーボード、2は装置全体を制御するCPU、3はCPUによって実行される各種プログラムを格納したROM、4は各種データや画像を格納したり各種プログラムの作業領域として用いられるRAMである。5は音声を入出力するハンドセット、6は音声を入力するマイク、7は音声を出力するスピーカである。8は画像を入力するカメラ、9は画像を出力表示するCRTである。10はCPUとのインターフェースをとるデータインターフェース、11はハンドセット5、マイク6、スピーカ7とインターフェースをとる音声インターフェース、12はカメラ8、CRT9とインターフェースをとるビデオインターフェースである。13は音声信号の圧縮・伸長を行う音声符号化部である。14は画像信号の圧縮・伸長を行う画像符号化部である。15はデータ・音声・画像信号の多重化・分離を行う多重分離部である。16は回線とのインターフェースをとる回線インターフェースである。なお、装置の操作指示入力は後述するCRT9に表示されるタッチセンサによっても行われる。

【0009】 図2は本実施例のマルチメディア通信装置の外観斜視図である。図2からも明らかなようにマルチメディア通信装置は図1で示した装置構成要素が1つの筐体に納められた一体構造となっている。

【0010】 【画面構成の説明（図3）】 図3はCRT9に表示される画面の構成を示す図である。図3において、31は画像を表示する画像表示部、32はメッセージを表示するメッセージ表示部、33は相手から受信した画像と音声の記録を指示する記録タッチセンサ、34は記録した画像と音声の再生を指示する再生タッチセンサ、35は記録した画像と音声の編集を指示する編集タッチセンサ、36は編集した画像と音声の再生を指示する編集再生タッチセンサである。このように本実施例においては、CRT9の画面の一部がタッチセンサとして用いられる。

【0011】 【情報記録再生処理の説明（図4～図7）】 ここでは、上記構成のマルチメディア通信装置が実行する情報記録再生処理について、図4～図7を参照して説明する。なお、ここでは本実施例のマルチメディア通信装置が取り扱うことのできるマルチメディア情報と同じ情報を処理できる装置をもった相手方と通信を行うものとする。

【0012】 図4は画像表示部9に表示された編集画像

一覧を示す図である。この編集画像一覧は編集タツチセンサ35の押下によって画像表示部9に表示され、編集画像一覧のそれぞれの区割り41～46はタツチセンサとして動作する。これらタツチセンサ41～46各々は後述するRAM4内の編集エリア52～57へのアクセスを指示するスイッチとなる。

【0013】図5は画像と音声を格納するRAM4の記憶領域の構造を示す図である。図5において、51は記録する画像と音声を格納する領域、52～57は51の領域に格納された画像と音声を編集して格納する領域

(最大6個)である。記録エリア51の容量に比べて編集エリア52～57各々の容量は、はるかに小さいものである。

【0014】図6～図7は情報記録再生処理を示すフローチャートである。以下に説明する処理は、(1)受信情報記録(ステップS1～S6)、(2)再生(ステップS7～S9)、(3)編集(ステップS10～S17)、(4)編集再生(ステップS18～S22)の4つの処理から成り立っている。

【0015】(1)受信情報記録処理

まずステップS1では、本装置に情報の着信があつたかどうかを調べる。ここで、情報の着信があつたと判断されたなら処理はステップS2へ進み、そうでないなら処理はステップS7へ進む。

【0016】ステップS2では、画像と音声を受信する。ここで、画像はCRT9の画像表示部31に、音声はハンドセット5に出力する。ステップS3では、CRT9に表示されている記録タツチセンサ33が押下されているかどうかを調べる。ここで、記録タツチセンサ33押下と判断されたならば処理ステップS4へ進み、そうでないなら処理はステップS6へ進む。ステップS4では、RAM4の記録エリア51に残量があるかどうかを調べる。ここで、残量ありと判断されたなら処理はステップS5へ進み、そうでないなら処理ステップS6へ進む。ステップS5では、受信画像と音声を記録エリア51へ格納する。本実施例において、記録エリア51への格納は、記録タツチセンサ33が押下されている間だけ行われ、記録エリア51に残量がなくなれば格納は終了するものとしている。ステップS6では受信終了かどうかを判断し受信終了なら処理をし、そうでないなら、処理はステップS2へ戻る。

【0017】(2)再生処理

さて、ステップS7では、再生タツチセンサ34が押下されたかどうかを調べる。ここで、再生タツチセンサ34押下と判断されたなら、処理はステップS8へ進み、そうでないなら、処理はステップS10へ進む。ステップS8では、記録エリア51に記録された画像を画像表示部31へ、音声をスピーカ7へ出力する。この再生タツチセンサ34は、記録エリア51の内容確認に使用するものであると言える。続いて処理はステップS9にお

いて、記録エリア51に記録された画像と音声の再生出力が終了したかどうかを調べる。ここで、再生出力終了と判断されたなら処理は終了し、そうでないなら、処理はステップS8へ戻る。

【0018】(3)編集処理

次に、ステップS10では、編集タツチセンサ35が押下されたかどうかを調べる。ここで、編集タツチセンサ35押下と判断されたなら処理はステップS11へ進み、そうでないなら、処理はステップS18へ進む。ステップS11では、図4に示された編集画像一覧をCRT9の画像表示部31に表示出力する。ステップS12では、編集画像一覧のタツチセンサ押下待ちとなり、タツチセンサ押下された段階で処理をステップS13へ進める。

【0019】ステップS13では、記録エリア51に記録された画像を画像表示部9へ音声をスピーカ7へ出力する。ステップS14では、編集タツチセンサ35が押下されているかどうかを調べ、編集タツチセンサ35押下と判断されたなら処理はステップS15へ進み、そうでないなら、処理はステップS17へ進む。ステップS15では、ステップS12で押下されたタツチセンサに対応するRAM4内の編集エリアに残量があるかどうかを調べる。ここで、残量ありと判断されたなら処理はステップS16へ進み、そうでないなら、処理はステップS17へ進む。ステップS16では、記録エリア51の画像と音声をステップS12で押下されたタツチセンサに対応する編集エリアに出力する。ステップS17では、記録エリア51に記録された画像と音声の編集出力が終了したかどうかを調べ、編集出力終了と判断されたなら処理は終了し、そうでないなら、処理はステップS13へ戻る。

【0020】ここで編集処理についてまとめておく。まず最初に編集タツチセンサ35を一回押下すると編集画面一覧が表示され(ステップS10)、記録エリア51の画像と音声を編集して格納したいエリアを編集画面一覧タツチセンサで指定する。この時点で、記録エリア51に記録された画像と音声の再生が始まる。その時、編集タツチセンサ35を押下すれば(ステップS14)、指定された編集エリアに対して画像と音声の格納が始まり、編集タツチセンサ35を押下し続けている限り、さらに、編集エリアの残量がある限り、編集エリアへの格納は続く。このとき、編集エリアに格納されていた古い画像と音声は新たな画像や音声データで更新される。

【0021】(4)編集再生処理

次にステップS18では、編集再生タツチセンサ36が押下されたかどうかを調べる。ここで、編集再生タツチセンサ36押下と判断されたなら、処理はステップS19へ進み、そうでないなら、処理は終了する。ステップS19では、ステップS11と同様に編集画面一覧を画像表示部31に表示する。ステップS20では編集画像

一覧のタツチセンサの押下待ちとなり、タツチセンサの押下の時点で処理をステップS21へ進める。ステップS21では、ステップS20で押下されたタツチセンサに対応する編集エリア(52~57のいづれか)の画像を画像表示部9に、音声をスピーカ7に出力する。この編集再生タツチセンサ36は、編集エリアの内容確認に使用することもできる。最後にステップS22で、編集エリアの画像と音声の再生出力が終了したかどうかを調べ、再生出力終了と判断されたなら処理は終了し、そうでないなら、ステップS21へ戻る。

【0022】従って本実施例に従えば、情報受信中には記録タツチセンサ33が押下されている間だけの情報を記録エリア51へ選択的に記録し、また、記録エリア51に記録された情報を再生して編集タツチセンサ35を押下することによって、より短い必要な情報のみに編集することができる。

【0023】なお本実施例では画像と音声をRAMに格納した場合について説明したが、本発明はこれに限定されるものではない。例えば、画像と音声を磁気ディスクや磁気テープに格納することもできる。

【0024】尚、本発明は、複数の機器から構成されるシステムに適用しても良いし、1つの機器から成る装置に適用しても良い。また、本発明はシステム或は装置にプログラムを供給することによって達成される場合にも適用できることは言うまでもない。

【0025】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、通信相手から受信した情報を選択的に記憶し、その記憶された情報を再生してさらに選択的に編集して記憶し、選択編集された情報を再生するので、少ない容量の記憶手段を効率的に用いることができるだけでなく、装置利用者は必要な情報のみを再生できるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の代表的な実施例であるマルチメディア通信装置の構成を示すプロツク図である。

【図2】図1に示すマルチメディア通信装置の外観斜視図である。

【図3】CRT9の表示画面の構成を示す図である。

【図4】画像表示部31に表示された編集画像一覧である。

【図5】画像と音声を格納するRAM4のエリア構成を示す図である。

【図6】

【図7】情報記録再生処理を示すフローチャートである。

【図8】従来例における画像と音声を格納するRAMのエリア構成を示す図である。

【符号の説明】

1 キーボード

2 CPU

3 ROM

4 RAM

5 ハンドセット

6 マイク

7 スピーカー

8 カメラ

9 CRT

10 データインターフェース

11 音声インターフェース

12 ビデオインターフェース

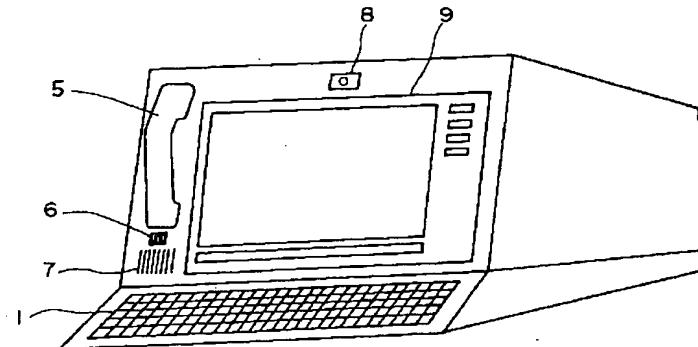
13 音声符号復号化部

30 14 画像符号復号化部

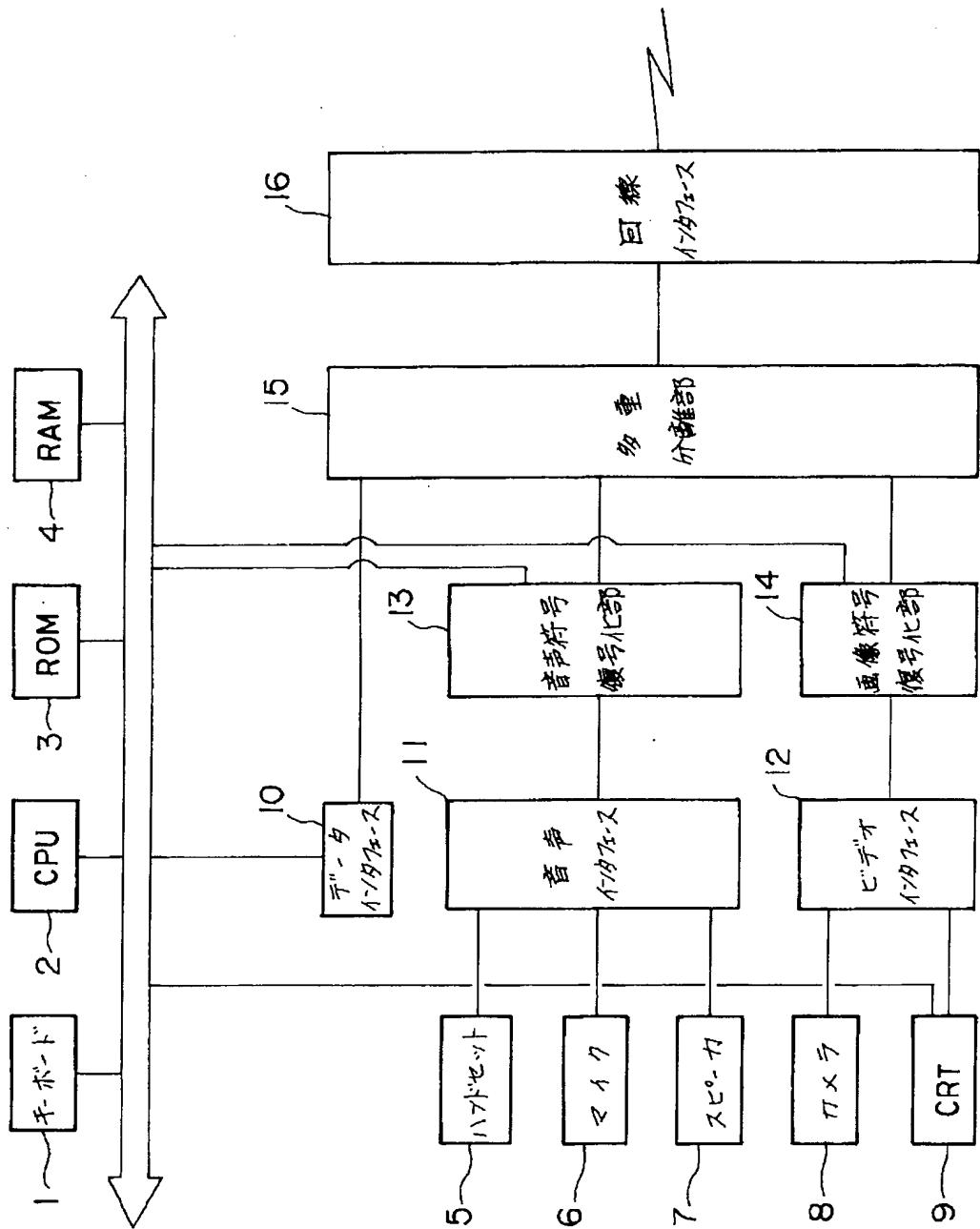
15 多重分離部

16 回線インターフェース

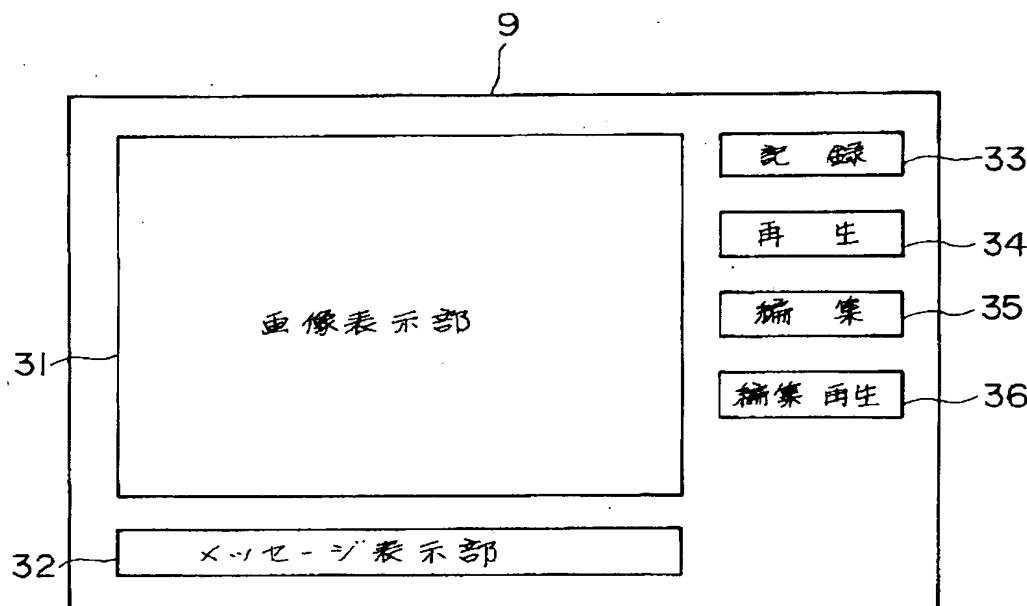
【図2】



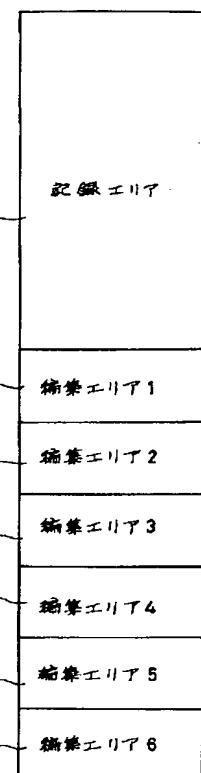
【図1】



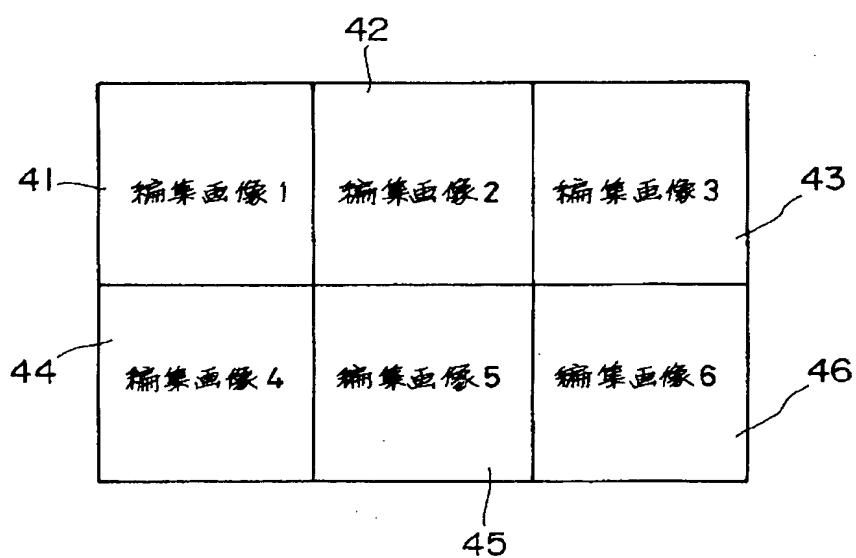
【図 3】



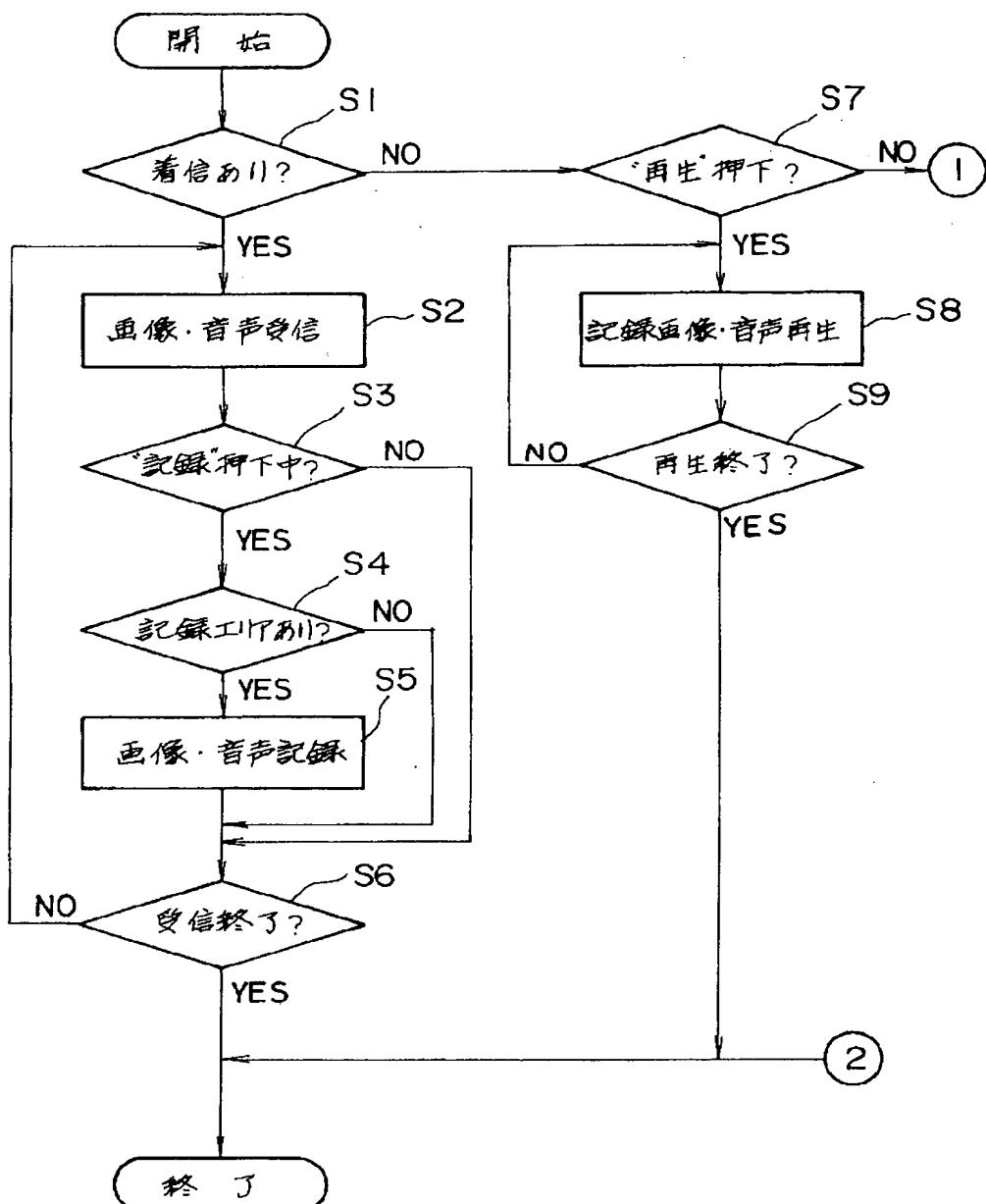
【図 5】



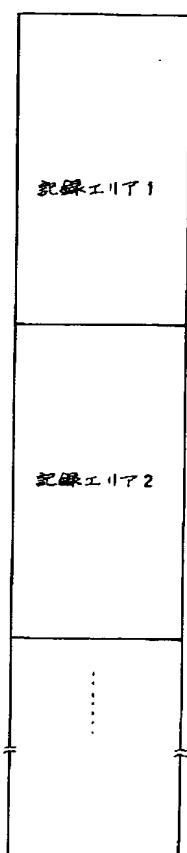
【図 4】



【図6】



【図8】



【図7】

